

『馬頭観音像』

市野々川地区の中央を走っている道を少し上がった所にある、日当たりのいい雑木林の中に、小さなお堂があります。

地元の人の手によりきれいに管理されているお堂の中に、地区の人たちによる手作りの着物を着て祀られています。

木で作られた観音像は、長い歲月により、風格が出ています。

※昭和50(1975)年佐賀町文化財指定。



■馬頭観音

他にも、「馬頭観音菩薩」「馬頭観世音菩薩」「馬頭明王」などさまざまな呼び名があり、人間の無知や煩惱を排除し、諸悪を懐す菩薩であるとされています。

民間信仰では、馬の守護仏として「農耕や交通の安全」の神として祀られることが多い一方、馬のみならずすべての生き物を救う観音ともされ、あらゆる障害を消し、人々の苦悩を断ち救済する観音として信仰されています。

近世以降は国内の流通が活発化し、馬が移動や荷運びの手段として使われることが多くなったことに伴い、馬が急死した道のそばなどに馬頭観音などが多く祀られ、

動物供養塔としての意味合いが強くなってきました。

道のそばにあり「馬頭観世音菩薩」の文字だけ彫られたものは、多くが動物供養の意味合いが強いものです。



■市野々川地区と観音堂

地元の人の話では、馬頭観音はずいぶん昔からこの地区にあり、いつ頃からあるか定かではないとのことです。

動物供養のためか、家族の苦悩を断つことを願って祀られたのかは分かっていませんが、今は家族が健やかに過ごすことへの願いが強いのではないかと言われています。

今も、月に1回は地区の人たちが集まってお堂の清掃、供養をしており、住民らの交流の場にもなっています。

文化財探訪ツアー報告

11月25日午前10時、一行25名は町マイクロバスで大方あかつき館を出発。県文化財課職員案内で、加茂神社、ふるさと総合センター(早咲遺跡より出土した土器の展示)、鞭遺跡、鹿々場古窯址群、最後に早咲遺跡を探訪し、お昼前に解散しました。

加茂神社では神社の由緒、早咲遺跡より出土した土器は卑弥呼と同年代のもの、鞭遺跡と鹿々場古窯址群は隣接しており、この辺りは官により統制された窯があったものと思われるなどの説明に、参加者は古代に思いを馳せているようでした。



加茂神社からスタート。早咲遺跡では、「隣の四万十市では銅鐸が出土しているので、黒潮町でも出土する可能性がある」との話もありました。